

シリーズ 3、富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン⑨

職藝学院

教授 渡邊美保子

ガウラ

初心者でも育てやすい宿根草を1つあげてくださいといわれたら、ガウラをおすすめします。ガウラは、その花の色と形から別名ハクチョウソウ（白蝶草）と呼ばれる北アメリカ原産の宿根草です。日当たりの良い場所を好み、寒さにも乾燥にも強い宿根草です。

ガウラは、5月中旬頃、細い花茎が何本も伸びてきて、たくさんのつぼみを持ちはじめます。6月になると、ちらりほらりと花が咲き始め、その咲き方はとてもものんびりしています。近くで見ると、まるで小さな白いチョウチョが下向きにとまっているように見えます（写真1）。



写真1 ガウラの白花（原種）。グループで植栽する場合は、株と株を最低80cm離す。

花の命は短いものの、咲き終わるとその上のつぼみが膨らんで咲きだし、花茎は花が上に咲き進むとともに長く伸びてゆきます。草丈は咲き始めは80cm位なのですが8月下旬には倍の1.6mほどになり、幅は人が両手を広げたほどになり噴水状に広がります。細いワイヤーがこんがらがったように豪快に広がる姿は、自由奔放そのものです。見方によっては、暴れているとも言いますが…。しかし、草丈を1mぐらいに抑える方法で、10月まで咲かせることができます。まず、6月中旬になりましたら、草丈の半分ぐらいから3分の2を刈り込みます。すると、新

しい花茎が伸びてきて一ヶ月後には再び花が咲きだします。9月初旬までなら、ひと月半に一度は、この作業を繰り返すことで、草丈を抑え、花も長く楽しめます。おすすめは、白花と桃色の品種を混ぜて植えたり（写真2）、エキナセア、宿根アスター、ラベンダーセージなど草丈の高いものと組み合わせると良いでしょう（写真3）。



写真2 ガウラの白花と濃い桃色の矮性品種シスキューピンクの混植。6月中旬。



写真3 ガウラ（中央）と組み合わせた宿根草ボーダー花壇。富山県総合運動公園、8月上旬。

しなやかに花茎が揺れる姿は、風が吹くたびにまるで白い絵の具が空を染めているように感じます。風は見ることはできませんが、色で風を感じるができるのは、このガウラが一番かもしれません。